

かぐらおが

(題字は山田守英学長)

第 27 号

昭和56年3月15日

編集 旭川医科大学
 厚生補導委員会
 発行 旭川医科大学教務部学生課



(旭川冬まつり)

内 容

第三期生の卒業を祝う……………山田 守英…2	学生準則の一部改正について……………10
6 学年の担任として……………海野 徳二…3	学生会シンボルマーク決定ノ……………10
この大学で思ったこと……………田中 充…4	歩くスキー講習会……………10
卒業を迎えて……………佐々木隆博…4	冬季スポーツ大会……………10
卒業を前に……………大野 高子…5	スキー遠足……………10
昭和55年度講演会一覧……………6	各種奨学金受給者数一覧……………11
1年のあゆみ……………7	サークル紹介……………11
課外活動報告……………布村 健一…9	窓外……………笹森 秀雄…20
研究室紹介……………原田 吉雄…9	



第三期生の卒業を祝う

学長 山田 守 英

本学第三期生の諸君は、昭和五十年に入学して以来、幾多の困難を克服して、孜孜として勉学に励み、所定の課程をすべて修了し、ここに卒業の日を迎えることになった。今、諸君の脳裡に去来するものは、過去六年間の大学生活における数々の忘れ難い思い出であろうが、しかし、それを越えて諸君の心境を占めているものは、諸君が本学に入学の当初、生涯医業を天職とすることを決意し、その基礎づくり青春を賭け、今ここようやくそれを果たしたという満足感と安堵ではなからうか。

ここに諸君の卒業を心から祝い、希望に満ち満ちた前途に幸多かれと祈りつつ、諸君をこの学園から歓んでお送りするものである。

諸君は本学における学習過程で、人間形成の修業と共に医学の各専門の知識と医術を修得したが、進学するにつれて、医学が如何に広汎な学問であり、しかも各専門は更に細分化し深遠であるかを知り、同時に医術もまた多種多様に亘り、精密度高く且つ厳しく熟練が要求されていることを知ることができた。従って大学における六年間という限られた期間では、医学の全体系の専門知識を知悉し、医術に練達することは到底不可能であることは明白であって、諸君の大学における学習目標は、将来医人となるための医学、医術の基本を体得することであった。それ故に、諸君にとって大学卒業は医学学習の終了を意味するものではなく、引き続き今までに修得した基本的な学術を土台として、今後実地に医療あるいは、医学研究の場において、多くの貴重な経験を積み重ねつつ、研修、研究に励んで、はじめて、自信ある優れた医人となることができるのである。更に現代医学は限りなく進歩発展するものであるから、諸君がすぐれた医人として、その天職を全うするためには、生涯勉学し続けなければならない。すなわち今日、医師の生涯教育が強く要請されている所以はここにある。

申すまでもなく医学は人間の生命にかかわる事象を対象とする学問であって、究極の目的は、学を医療として実践に移し、人間の健康回復と保持増進に寄与することを使命としている。すなわち医の精神は人間生命の絶対的尊重がその根底をなしているのであるから、医人となる諸君は、医学の専門知識を究め、医術に卓絶していることが必須の条件であることは勿論であるが、医療の対象が人間であるところから、実践する医人は、常に他の人々から尊敬信頼される高潔な人格者でなければならない。医の実践は医学と医術と医道が一体となることによ

って全きを期することができるのである。如何に専門の学と技術に秀でようとも、医道すなわち医の倫理に悖り、世の信頼に背く者は医人としては失格である。このように医療の実践は人類の健康福祉に寄与貢献するものであるから、医業は將に公益奉仕の崇高な生業であって、利潤を目的とする他の一般産業とは明らかに異なるものである。諸君は、生涯医を生業にしようと志して本学に入学したのであるから、医学を通じて人類社会に奉仕貢献することは、当然の責務でなければならない。医聖ヒポクラテスは、医師としての誓いの中に「凡そ患者に対する処置は患者の必要な利益のためにのみし、苟も危害を招くが如き処置を戒めて、これを避くべきことを……」と述べ、ドイツの名医フーフランドは、その名著「医戒」に、「医の世に生活するは、人の為のみ、己の為に非ずということとその業の本旨とす。……」といい、更に「病者に対しては唯病者を見るべし。その貴賤貧富を顧ること勿れ。……」と戒めている。諸君はこの医聖の誓い、先哲の医戒を、諸君自らの信条として、日々の研修、研究に精励して、将来優れた医人として、人類社会の福祉に貢献されんことを切望して止まないものである。

今諸君は本学の卒業生として社会に進出することになったが、社会はいつも諸君が近い将来地域医療に参画することを強く期待し、注目している。諸君はこのことを心に留め、やがて機会を得て、社会の期待に応えられんことを望むものである。

新設医大である本学は、卒業生を世に送ってから僅か二年を経たに過ぎない。従って卒業生の社会における活動実績は全く未知数である。この意味において、諸君は既に卒業した第一期生、第二期生と同じく、本学の先輩卒業生として、共に社会的活動の実績を挙げ、後輩の手本となつて、以って本学に固有の光輝ある伝統を築いていただきたいものである。

終りに、重ねて第三期生諸君の卒業を祝し、諸君の今後の発展と御多幸を祈って止まない。



6 学年の担任として

海野 徳 二

私は怖い教官という噂がたっているらしい。そんな私に5・6の2年間に互って受持たれた今年の卒業生はさぞ気の毒だったろうと同情している。卒業試験の一部に、耳鼻咽喉科実習の特徴を書くようにとの問題を出したところ、教室での講義のようにもっと優しくやれとか、厳し過ぎるとかという批評を随分いたされた。教室と実習中の学生諸君とでは、こちらの見方が異なっているのだから、同じような態度で接しようとは思っていない。そこで何故厳しいのかという弁解を書いてみよう。

臨床実習とはどんな意味を持っているのだろうか。医学部を卒業して医師国家試験に合格すれば、制度上は立派な医師となる。登録を済ませれば何科の診療を始めようと開業しようと法に触れることはない。とは言うものの、実際には医師としてまだまだ字ばねばならないことが残っているから、或る期間の研修を卒後に行なう人が大部分である。卒前にどの科の医師としても一人前になっているということは所詮無理な話で、そんなことを期待して厳しくしているのではない。理由の大部分は他にある。

学生が患者を診察することが何故許されるのだろうか。誰でも自分が病気になるなら、上手な医師に親切に診て貰いたいと思うのが人情である。初めて実習をするのだから上手である筈はない。親切には思っても、それを態度で示せるようになるにはかなりの修業がいることである。医学部学生の権利として診察することが出来るなどと考えると大間違いだ。私は患者さんの了解を得る時には「〇〇君はこの大学の最高学年の学生で、既に知識の教育は終了している。現在は実技の修練をやっているところだから今日は〇〇君の診察を受けて下さい。」と紹介することになっている。つまり、臨床実習開始前に知識の面では要求レベルに達しているからこそ、患者さんを診察することが許されるのだと考えている。臨床実習とは何かを教えるのではなく、今まで学習したことを実際に応用してみる場なのである。だから、私は実習中の学生を学生であると同時に、病院のメンバーの一員である社会人としても接している。このあたりも厳し過ぎるという一因となっているようだ。

最近「新人教育のためのワークショップ」なるものに参加する機会を得た。全国の大学から約70人集ったが、朝9時から夜10時迄の3日間のスケジュールには、皆くたくたに疲れて、3日目には無事終了したことを喜び合った。その時、オリエンテーションが必要かどうかが話

題となった。いろいろ話して私にも必要であると思った。しかし、臨床実習とはオリエンテーションの時期でもあると感じた。インターン制度が無くなった現在、臨床実習はオリエンテーションにまぎらびつたりの時期ではないか。医師としての出発点はもう始まっているのである。imprintingという言葉がある。卵から孵った雛は最初に見た物を自分の親だと思ってしまうという。つまり、最初に接したものの印象は強烈で、出発点で身につけたものは、その人の医師としての一生を左右するのである。臨床実習の短い期間には、医師としての基礎を確立し、自分の進路に光を投げかけて欲しいと願っている。

出発点で何が大切かということ、自分はどこ迄分っている、どこからが分からないかははっきり理解することだと考えている。医師には生涯学習が課せられている。医学は日進月歩で時代と共に到達レベルは変化するから、一生かかっても理想的な最高レベルに達することは不可能であろう。とすれば、分っていることと分からないこと、出きることと出きないこととの区別がつくことが何よりも重要ではないか。研修1年目には1年目の名医がいるし、10年目には10年目の名医がいる。臨床実習時代にさえそれなりの名医がいるのだ。それは、それぞれの段階でこの区別がはっきり出きる人たちのことである。誤診は以外に多いものだ。それはこの区別をはっきりつけずに想像、推測、感で物を言うところから生ずる。名医は決して誤診はしない。分らない、出きないと言える勇氣と謙虚さを常に持っている人たちだからである。

では、分らないから分るように何をやっても良いかと言うと決してそうではない。患者さんを苦しめないという優しい心は常に持ちたい。自分が病気になるたらどうやって欲しいか。自分の肉親が患者だったらどうするか。こんな簡単なことを思い浮かべることも良いだろう。検査は分らないところを分るようにするために許していたべく手段である。検査の意味と患者さんに与える苦痛とを常に心に留めていて欲しいと思う。

こんなところが私が考えている臨床実習の意義である。厳し過ぎるという理由も分っていたら良かったらどうか。医学教育者でもあり同時に不治の病の患者でもある立場で書かれた故吉岡昭正教授の遺稿「死の受容」(毎日新聞社刊)は非常に感銘深かった。卒業後は諸君の多くは私に接する機会は無いのだから是非読んで欲しい。諸君が良き医師になることを心から祈っている。

(第6学年学年担当 耳鼻咽喉科学講座 教授)

この大学で思ったこと

田中 充



私はこの大学へ6年前にやって来た。医者になろうと思ったからである。

その時、私は何を考えていたのだろうか、旭川という町、この大学に何を期待していたのだろうか。

近頃、街は昔と違って新しい建物もふえ、道ゆく人々も派手になった。食欲や性欲をそそるものも多くなり、以前よりは容易に手に入れることができるようになって来たように思える。経済力が豊かになったからでもあろう。書籍を買うのも酒を飲むのも学生にとって楽になった。当然の権利だと思う人も多い。

しかし、世の人は大学生をバカにし始めているように思えてならない。何故だろう。一般の方々と大学生には、何処に差が有るのだろうか。色々異なる点は有るだろうが、一番の違いは、大学生は大学に行き、経済的に独立している人が少ないと言う所だと思う。しからば、大学で何をするのか。医者になる、どういう医者になるか、またその間に何をしようかと自分の理想と現実の中で行動することだろう。その中では大学は生活の一部分となる。そして私は、その意味で大学をもっと利用してほしいと考える人間なのである。

男女の間もそうであるように、向こうから声をかけられて、付き合い、直ぐ仲が良くなると言うのは、楽ではあるが、あまり燃える物でも無く、味が有るものでもない。やはり、こちらの感性を豊かにし、なおかつ相手をうまく誘い、乗せて行く努力が必要である。その過程にこそ、心を躍り上らせる物があるだろう。このように、大学もこちらから働き掛ければ、以前とは異った味が湧き出て来るはずだ。この求める心を呼び起こすために、私は、学生同志が、また教壇に立つ人たちが互いを刺激し合って行かなければならないと考える。

こうして触発され合い、大学の利用の仕方が種々生まれて来る所に、伝統とか歴史と言うものが存在して来るだろう。そして、その広がりや、直ぐ終わりに到達するような物では無い、私たちの努力で果てることの無いものにして行かなくてはならない。私は、個人がこの中に参加する方法は、自分で考えることだと思う。これは、なかなか努力を要する、疲れることである、意見が異なれば、そこには議論や感情も乱れ飛ぶだろう、しかし充実感もあるはずだ。広い視野も得られよう。

しかし残念ながら、おまえはどうだと言われると、胸を張って答えられない。また、男女の関係も初めの付き合い方が大切のように、一期生・二期生・三期生の残し

たものが、良い方向付けをしてくれたかは、この機会に一考してもらいたい。ところで、医学部では学年が上に進むにつれ、知識の量がふえ、我々受験生ともなると極めて多い。この情報を如何に処理するかが、死んだ知識とするか、生きたものにするかの鍵である。私の友人は、こんなことを言っている。「学年が5年・6年になるにつれ“おうむ病”が流行する。これに罹らないと医師になれないのだよ。」これは、選択枝の問題集をやり、その結果、途中の過程や原因はさて置き、AとBを結ぶようになることを喩えているのであろう。確かに臨床医学は経験に基く所が多いが、これを解明して行こうとするのが、科学だ！上の言葉は、科学者を目指す友人の自嘲だと受け取っている。

生きた知識を得ることへの私の一つの提案は、自分を知ること、つまり、理解していることと、分らないことを明確にし、分らない物を使う時には、これはよく分っていないと言うことを認識することである。たとえば **glycogen** という単語は、どのように英米人は発音するのか、そして、あなたは どうして そう発音するのか、私が問われたのは2年生の時だった。外人講師と洋書を教科書としていた教授がきっかけだった。そして洋書を読めるようになったのも、この人たちのおかげだと思っている。最後に私の好きな言葉を誤解している人が居るので注意してもらいたい。批判とは、物事を批難したり反対を叫ぶことでは無く、もっと建設的な思考のことである。金田一京助によると、事物・学説の意味を根本的に研究して、その論理的基礎を明らかにすること。

旭川医科大学に良き伝統が生まれることを願って。

昭和56年2月17日 (第6学年学生)

卒業を迎えて

佐々木 隆 博



新設の旭川医大に入ってまず驚いたことは、他大学卒業生・中途者、それに職場経験者といった面々が数多くいたことである。そう言う私も、その中の一人であったから、入学前は、それ

相応の覚悟をしていたものだが、入学後まもなくこの事実を知って、何となくほっとしたことを覚えている。かと言って私は、例の医学部ブームに乗って医学部に入ったつもりはない。自分の学問的思索を押し進めて行って辿りついた先が医学部であった。偶々時期が不幸にもブームと一致してしまった。かくしてひねた学生が、数多くいて、先生方もさぞかしご迷惑だったろうと推察される。この点一同になりかわり、深くお詫び申し上げます。

次に驚いたことは、当然のことながら、何もかもが新しかったことである。建物・実験器具・ロッカー・そしてカリキュラム……小・中・高・大と常に古い校舎で過してきた私にとって、各個人に新しいロッカーが割当てられるということだけで驚異であった。うれしくて初めて大学に入ったような気分になったものである。

こうして医学部での大学生活が始まったが、最初の間、少くとも三期生くらいまでは、お互いが顔見知りであり、なごやかな空気に包まれていたように思える。先生方・事務の方々・図書の方々・その他関係者の方々、全員が新しさの中で張切っておられたし、みんなの心の中に新しさに対する喜びがあったように思える。そしてよそでは見られないような交流が、上記の方々と学生達の間にも生まれたりもした。

そのうちいやなことも起きてきた。それは一緒に入学した仲間達が、留年ということで毎年何人かずつ欠けていったことである。ことに片方では不正行為とおぼしきことが行われているのに、他方では試験の僅かの点差で落とされる学生がいるといったことは、法学部出身の私にとって、まず第一にびっくりしたし、次に怒りが沸いてきた。このことについて、無理は承知で副学長の先生と掛合ったこともある。その後若干の改善がなされたとはいえ、相変わらず、不正行為等には寛容（一部の先生方は真に注意されておられるが）な割に、試験の点数では厳しいといった矛盾が続いているように思える。医学部を取巻く社会的環境が変化しつつあり、医師の国家試験が難しくなってきた現状では、ある程度の厳しさは、やむをえないとしても、少くとも先に述べたような状況は、苦勞させられている年寄仲間の間では評判が悪かった。

卒業を前にして懐しく思い出されるのは、伊の沢での体育のスキー授業、とまどいながらも何とかまとめあげた最初の頃の大学祭、解剖学実習で初めて御遺体を前にしたときの感激、細菌学のインフルエンザウイルス実習の後、それまで経験したことのないような長く続く風邪にかかったこと、大雪という素晴らしい自然を目前にしなが断続的に続く試験、ことに秋の紅葉の一番いい時期に行なわれる試験のために、出かけられず残念な思いをしたこと、基礎から臨床講義室に移ってそのアルプスのような階段教室に感銘を受けたこと、まだ未完成の附属病院へ、友人と2人で出かけ、手術場を探検したことなど、数限りない。

学年が進むにつれ勉学の方も忙しくなっていた。ことに試験ともなると、衰えた記憶力に答打って若い人達についていかねばならなかった。しかし本当に勉学の必要性を痛感したのは、ポリクリで患者さんを前にしたときで、教科書の内容が初めて生きた知識となって自分に迫ってきた。しかしとき既に遅しの感があった。

7・8期生を迎える頃になると学内の雰囲気も次第によそで見られる管理社会の様相を呈してきて、何となく寂しく感じられたものである。Freshな新入生を迎えるた

びに、その若々しさに、昼休み時、学生食堂に出かけるのに「恐怖」を覚えるようになったのもこの頃である。

ともかくにも、我々が卒業を迎えるに至ったのは、先生方は申すまでもなく、常にわけ隔てなく接してくれた若い人達のおかげだと思う。勿論、時折年齢差・経験差を感じることはあったが、医学を学ぶということについては皆同じであった。若い人達よ、「今後よろしく」そして最後に、長い間、私の我儘を見守ってくれた、私の両親に深く感謝しつつペンを置きたいと思う。

(第6学年学生)

卒業を前に

大野高子



6年間、お世話になった学生ロッカーが空になった事を、もう一度、確認しながら、「これで、私の学生生活も終わったのだな。」と少し感慨にふけりながら、扉を静かに閉じました。この

大学に入学し、初めてロッカーを割り当てられたあの頃の私は、親元を離れ、何から何まで、自分で設計できる生活を前に念願であった医師への道を一步踏み出せる喜びと興味で、まさに胸をふくらませていたのです。

最高学年がやっと3年になったばかり。学内の人は少なかったものの、一期生の方とお話していると、「すばらしい学校の基礎を築くぞ。」という息込みは、新入生の私にも伝わってきたものです。実際、クラブ活動においても、一期生・二期生を中心として、胎動し始めようとしていた頃でした。

講義だけの生活ではなにか空しく、どこかの運動クラブに入りたい……。いろいろ考えた結果、シーズンを問わず、体を動かすことのできる卓球に挑戦してみることにしました。思えば、それからの私の大学生活の3分の2は、卓球にふりむけられていた気がします。入部したての頃は、初めての大学生活で、コンパにおいても、初めての宴会の席に、おしゃくの仕方もちこなく、とまどったものです。(それが今では?!)ですから、先輩にすっかり甘え、卓球もさることながら、当時は、まだ少人数で家族的であったクラブの雰囲気が好きで、講義が終わると、すぐ体育館に飛んでいったものです。その頃、テニスコートも今の様に学内にはなく、テニス部は暇を見つけては、近文まで通って練習していました。その点、卓球台は、常時体育館にあって、さぞかし上達するであろうと思いきや、球のスピードは速く、球の感やゲームを楽しめるレベルにまでは、一応、到達したつもりですが、華麗なるプレー?! まで上達できなかった事は残念です。

三年生になった時に、初めて、女子の後輩ができました、後輩ができた事で、楽しくもなりましたし、私自身自分のプレーを見つめ直し、卓球への意欲と共に、他の面でも、後輩の目を感じて、がんばらなければ、と思ってきました。卓球の各試合の団体戦に出るには少なくとも、四人いなければなりません。毎年、入学してくる女子学生の数は少なく、その中で、卓球をやりたい人を見つめるのですから、入部してもらえらる確率は十分の一あるかないかというところ。メンバーがそろって、はじめて団体戦に出場できたのは、私の4年目の秋、札幌で開かれた北医体でした。試合に皆を引っぱっていくには、負け試合ばかりではだめで、試合から帰ってくるたびに強くなりたい、どのように練習すれば、強くなれるか、よく話し合ったものです。それにしましても、学校の周りでの皆とのランニングは、大雪の雄大なながめのもとにそのさわやかさといったら、何にも代え難いものでした。

旭川医科大学に来てよかったと思うのは、一歩、足をのばせば、層雲峡・天人峡・旭岳・十勝岳・黒岳と、四季折々の自然に接することができるということで、天気の良い日など、講義をエスケープして、ドライブした思い出、ハイキングした事、旭川ならでの恵みでした。ただ、スキーの季節にたいいて、テスト期間がぶつかってしまうのは、残念でしたけれど……。

さて、少し肝腎な勉強の方に触れると、解剖実習を終えた頃、脳の組織が見たくて、先生にお願いして、サルの胸切片をスケッチしました。それまでも、いろいろな実習で、動物を使った実験を皆についてやりましたがやはり、自分から興味を持ってやる勉強というのは楽しく、神経とは難しいものとは思いましたが、解剖学教室で勉強させて頂いた経験は貴重なものとなりました。自分の興味ある所、ある所と、せつかく場はあるのですから、思い切って探ねてみる価値はあると思います。設備は、最新グループに入ると聞いてますし、もう少し、勉強に目が向いていたなら、まだまだ、いろいろな機会に巡り会えたのではないかと思います。

夏の東医体、北医体と卓球の試合を通じて、他の大学の方と知り合いになれたことや、遠征するたびに、少し足をのばして旅行できたことも良い思い出となりました。女子の運動部も、今では、かなりクラブ数・人数が増え、頼もしい限りです。私の属していた卓球部に関して言えば、ここまで歩めることができたのは、男子部員・監督の先生の応援、アドバイスが大きな力となっています。又、ちょうど同じ学年で、テニスをする佐藤佳子さん、林 委子さん、スキー部の佐藤綾子さんがいて、はげまし合えたのも、ラッキーな事でした。

こう書いてきますと、私の大学生活は卓球を軸にして勉強の方が、今一という気がしますが、勉強は、これから、患者さんについて、じっくり、気長に、一生続けていきたいと思っています。そのためには、まず、自分自

身が健康であること、そして、人間として、いろいろなことを経験していかなくては、と思います。自分の言葉に責任の持てる医師をめざして、一步一步、努力を続けていきたいと思っています。

最後になりましたが、6年間いろいろな方々にお世話になり、本当にありがとうございました。

下宿から学校までの四季折々にいろいろな表情を見せてくれたアカシア並木、私は忘れたいと思います。

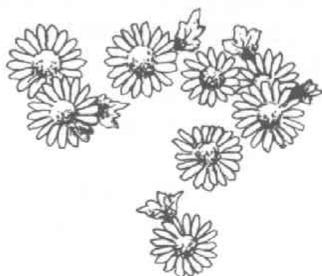
(第6学年学生)

昭和55年度講演会一覧

昭和55年度本学で開催された講演会は次のとおりです。

(庶務課)

日時	演 題	演 者	担当講座
4月21日 (月)	医学の学び方	国際医学情報センター理事長 牛場大蔵氏	
6月5日 (木)	週産期脳損傷の病理	スイス、チューリッヒ大学病理学研究所 ラインハルト・レフリデ氏	精神医学講座
8月22日 (金)	大脳皮質運動野の構造と機能	アメリカ、ロックフェラー大学教授 浅沼 宏氏	生理学第二講座
9月3日 (水)	悪性腫瘍の集学治療について	東京大学名誉教授 佐藤靖雄氏	耳鼻咽喉科学講座
10月2日 (水)	食道癌の治療	岩手医科大学教授 森 昌造氏	外科学第一講座
10月15日 (水)	カテコールアミンとストレスについて	スロバキア科学研究所 リチャード・クベトナンスキー氏	薬理学講座
11月13日 (木)	欧州における2,400例の食道癌治療現況と今後の課題	フランス、パリ大学教授 ロベルト・ジュリー氏	外科学第二講座





昭和55年

4 月

- 11日 第8回入学式
- 19日 昭和55年度新入生合同グループ研修
- 20日 (於 層雲峡)



28日 バレーボール講習会 (主催 学生課)



5 月

- 17日 第69回医師国家試験合格者発表
(本学合格者84名 合格率93.3%)

6 月

- 12日 第6回医大祭
- 15日 テーマ「交流そして連帯—80年代を俺達の手で—」

7 月

- 11日 第27回北海道地区大学体育大会 (当番校 小樽商科大学)
- 14日 (本学参加種目) 陸上競技・準硬式野球・バスケ
ットボール・バレーボール・サッカー・バドミントン・柔道・剣道・弓道
(本学参加学生数) 136名
(成績) 男子30大学中6位
女子34大学中20位

21日 第23回東日本医科学生総合体育大会夏季大会（主
8月7日 管校 千葉大学医学部）

〈本学参加種目〉陸上競技・準硬式野球・硬式庭球・バスケットボール・柔道・卓球・バレーボール・バドミントン・サッカー・剣道・弓道・空手道・水泳

〈本学参加学生数〉 240名

〈成績〉 34大学中24位

9 月

10日 秋季体育大会（バレーボール・ソフトボール）



24日 昭和55年度解剖体追悼法要（於 東本願寺旭川別院）

10 月

19日 第23回東日本医科学生総合体育大会冬季大会（主
S56 管校 東京女子医科大学）

3月26日 〈本学参加種目〉ラグビー・スキー
〈本学参加学生数〉 67名

11 月

1日 附属図書館長に石井兼央（内科学第二講座教授）が発令された。

8日 第70回医師国家試験合格者発表
（本学合格者2名、合格率33.3%）

昭和56年

1 月

10月 昭和56年度大学入学者選抜共通1次学力試験
11日 （本学会場受験者 773名）

14日 歩くスキー講習会
21日

22日 冬季体育大会（バドミントン・卓球・サッカー）
2月2日

2 月

4日 スキー遠足
（対象 第1学年学生、於 十勝岳スキー場）



14日 昭和55年度動物慰霊祭
（於 動物実験施設）

20日 参与に今井道雄（北海道商工会議所連合会会頭）、黒川利雄（癌研究会附属病院名誉院長）、丹羽貴知蔵（北海道大学名誉教授）、日野原重明（聖路加看護大学長）が発令された。

3 月

4日 昭和56年度旭川医科大学入学試験
5日 （志願者 356名）

12日 昭和56年度旭川医科大学入学試験合格者発表
（120名）

13日 昭和56年度旭川医科大学大学院入学試験
（志願者 13名）

19日 昭和56年度旭川医科大学大学院入学試験合格者発表
（13名）

25日 旭川医科大学第3回卒業式
（卒業生89名）

（庶務課・学生課）

課外活動報告

布村 健一



レコード出版

このたび、私のジャズのLP「布村健一/スカイウォーキン」(パイブリッジレコード)が、発売されました。私のキーボード(ピアノ、シンセサイザー等)をフィーチャーし、3人の黒人ジャズメンと、私の母を加え、ノリの良さを強調致しました。全曲私の作編曲です。ジャズの動的で耽美的な調和を大切にしつつ、

明るくわかりやすい作品となりました。

本学ジャズ研は、2期(卒業)の宮田、矢野両先輩が設立されて、満4年がたちました。私はそのピアニストを続けて参りました。母悦子は、札幌北高卒業後、奥田宗宏とブルースカイオーケストラ等を経たジャズピアニストです。3人のアメリカ人は、私の友人で、旭川で出演しておりました。このゴールデンメンバーで、私の音楽を表現でき、幸せです。是非一度、「スカイウォーキン」のサウンドを、お楽しみ下さい。

さて皆様、このジャケットのダイナミックな絵を御覧下さい。まさにアルバムタイトル「SKY WALKIN'」にぴったりの、想像力を刺激してくれる傑作です。同級の山本浩史君の作品です。山本君は昨年、札幌大丸画廊で個展を開き、プロにもショックを与えた人物で、友人達の誇りです。

お陰様で、新聞や専門紙等に、十分に掲載され、テレビ・ラジオのCMにも、数社に使って頂き、現在のところ、好調です。医学部で課外活動することは、数々の困難と矛盾を含み、周囲の方々の御親切なくしては、この様な出版を達成できませんでした。皆様に心より御礼申し上げますと共に、御報告申し上げます。

(ジャズ研部員、5期生)

研究室紹介

■ 整形外科科学講座 ■ 原田 吉雄

教室が発足してから既に満6年を過ぎようとしている。初め竹光教授(九大より赴任)、原田、佐藤(北大より)の3名であったが病院開院と同時にスイス留学中の安藤、フランス留学中の平山両氏が講師として、北大からは小野沢氏が助手として参加した。また同じ頃今井技官が赴任し早速工学畑の基礎作りを始めた。更に翌年、翌々年には九大から安部、市ヶ谷両氏が参加した。

診療と研究面では脊椎疾患を中心に教授・原田・市ヶ谷が、上肢の疾患を平山、股関節疾患を安藤、下肢の疾患を佐藤・小野沢、RA・骨代謝性疾患を安部の各スタッフが分担した。教授・原田・市ヶ谷・今井らは側弯症を研究すると共に、学校検診の必要性を叫んでモアレ法を組んだ独自の検診方法を広く実施し大きな成果をあげている。これに関連し度々の国内、及び国際学会で発表し、しばしばジャーナリストから追いかけている。

私は文部省在外研究員として1年間米国で脊椎の電気生理学の実用化に関する研究を行い帰国後研究を進展させ、脊椎誘発電位のモニタリングによる脊椎手術の危険防止に関する研究を行ってきた。この方法は現在我が国が世界で最も進んでおり脚光を浴びてきたが、より確実・簡便な方法を目ざし努力してきた甲斐があって、国際学会でも度々発表し、昨年ドイツ学会では新聞にも紹介された。

他方教授と佐藤は振動障害の研究に着手し関連学会でシンポジウムや招待講演を行った。

手を含む上肢の手術は当教室の中で最も多い。平山講師はこれを一手に引き受け、microsurgeryによる切断肢再接着はもとより、血管柄つき骨・筋・皮膚遊離移植を行い難治性疾患に大きな光明を与えた。

安藤講師は一万数千の乳児検診時の股関節線線を分析後、先天股脱の正しい読影法や造影技術を普及させると共に脱臼、整復のメカニズム等を考察し内外から認められつつある。また人工股関節を成功させる因子についても研究が進められている。

佐藤・小野沢両氏は変形性膝関節症のosteotomyに優れた成績をあげ、人工関節へと安易に走りがちな風潮にブレーキをかけた。またその成因についてBiomechanicsと電気生理学を駆使したユニークな研究に取り組んでいる。

今井技官はbiomedical engineerとして大活躍で現在コンピューターによる情報処理の研究に没頭している。

我々は合議制により培われた力強いチームワークにより教育・研究・診療の3本柱を支え、正に八面六臂の毎日である。

(整形外科科学講座 助教授)

学生準則の一部改正について

旭川医科大学学生準則の一部を改正する規程（昭和56年1月14日旭医大達第1号）

この規程は、学生証の発行方法を改めるとともに、併せて規程の整備を図るため、所要の改正を行ったものである。昭和56年4月1日施行。（庶務課）

旭川医科大学学生準則の一部を改正する規程

旭川医科大学学生準則（昭和49年旭医大達第9号）の一部を次のように改正する。

第1条中「旭川医科大学学則（昭和48年旭医大達第1号。以下「学則」という。）」の下に「及び旭川医科大学大学院学則（昭和54年旭医大達第7号。以下「大学院学則」という。）」を加え、「及び学則」を「並びに学則及び大学院学則」に改める。

第4条中「学生証の交付」の下に「又は査証」を加える。

第5条第1項中「上半身」を「正面上半身」に、「3.5センチメートル」を「3センチメートル」に、「2枚」を「1枚」に改め、「なお、第2年目以降は旧学生証をあわせて提出しなければならない。」を削り、同条第2項中「学長に届出るとともに、」を削り、「願い出て」を「届出て」に改める。

第6条中「転学、退学及び卒業により学生の身分を失ったときは」を、「転学、退学、卒業及び修了等により学生の身分を失ったとき、又はその有効期間が満了したときは」に改める。

第11条中「第23条」の下に「並びに大学院学則第20条」を加える。

第24条中「学則」の下に「又は大学院学則」を加える。

附則

この規程は、昭和56年4月1日から施行する。

上記のように学生証に関する学生準則の一部が改正され、昭和56年度から学生証の発行方法及び様式が改正されます。改正後は3年に1度学生証を発行し、発行日から起算して1年及び2年経過後に在籍を確認する意味で査証を行うこととなります。また、学生証の台紙も3年間有効の様式になりますので、汚損・紛失等には今まで以上に留意し、再交付の必要が生じた場合には、速やかに学生課学生係に届出てください。

（学生課）

学友会シンボルマーク決定！



学友会では今年度の事業の一つとして、校章、シンボルマークの制定を計画しました。校章（正式なマーク）と、親しみの持てるシンボルマークと、二つ作る予定にしておりましたが、

やっとシンボルマークのほうを作ることができました。昨年中に募集した作品のうち、最も人気を集めた、一年生・浅岡隆浩さんのものを一部修正したものです。クラブのワッペンや旗などに、大いに利用して下さい。原図を見たい方、写真の欲しい方は学友会委員までお知らせ下さい。

なお、校章はこれといった応募作がなかったので、旭川在住のデザイナー、柳久雄さんに依頼してあります。これも近日中に発表できる予定です。

来年度は、これに続いて是非校歌を作りたいと考えています。（学友会委員 大見広規）

歩くスキー講習会

冬の手軽なスポーツに親しむことを目的に、歩くスキー講習会を1月14日(水)、21日(水)の2回実施した。

歩くスキーは初めてという7名と、昨年の経験者1名が参加し、第1回目は本間実講師から本学野球場で初歩の指導を受けた後、犬舎裏の台地で滑降練習を行った。

第2回目は神楽岡公園で3kmの歩くスキーコースを滑走した。2回目とは思えぬほどの足どりの軽さで、晴天にも恵まれ、歩くスキーの楽しさを味わっていた。（学生課）

冬季スポーツ大会

1月22日(木)～2月2日(月)の昼休み、放課後を利用して冬季スポーツ大会が開催された。サッカー・バドミントン・卓球の3種目にのべ23チームが参加し、連日熱戦が繰り広げられた。結果は次のとおり。

サッカー 1位昨年度優勝した元幸荘チーム 2位旭医ユース代表
バドミントン 1位あ～るちゅうチーム
2位学生課チーム 卓球 1位学生課チーム 2位あ～るちゅうチーム
（学生課）

スキー遠足

第1学年学生を対象としたスキー遠足が2月4日(木)に十勝岳スキー場で実施された。第1学年学生111名、第1学年学年担当1名、グループ担任3名、指導員6名が3台のバスに分乗し本学を出発。スキー場に到着すると、十勝岳本峰も姿を見せ、絶好のスキー日和。雪の豊富なゲレンデや白金温泉までの林間コースで指導を受けた。参加学生はスキー授業での成果を発揮し、のびのびと滑っていた。（学生課）

各種奨学金受給者数一覧

本学には、日本育英会・都道府県等の各種奨学制度があり、これらの制度は、学業成績優秀かつ学費負担者の経済的理由により、学業に専念できない学生に対し奨学金を給・貸与するものです。

希望する学生は、自分に適した制度に応募されると良いでしょう。

なお、本学で取り扱っている各種奨学団体とその奨学金受給者数は、下記のとおりです。

(学生課)

昭和55年度各種奨学金受給者数

区 分	貸与 月額	一 年	二 年	三 年	四 年	五 年	六 年	計	備 考
日本育英会一般貸与	18,000	12	21	12	13	25	16	99	
自 宅 特別貸与	20,000	5	6	5	3	0	3	22	
自宅外	26,000	10	13	15	13	19	11	81	
大 学 院	70,000	16	7					23	
計		43	47	32	29	44	30	225	
日本通運育英会	10,000				1			1	
北海道医学修学資金	73,000		2	2	4	3	11	22	
交通遺児育英会 (財団法人)	20,000					1		1	
明治製菓育英会 基金奨学金	15,000					1		1	
大 阪 府 育 英 会 (財団法人)	5,000					1		1	
杉村先生記念 財団奨学金	14,000					1		1	
長野県医学修学資金	50,000					1		1	
福井県医学修学資金	50,000					2		2	
南 条 育 英 会 (財団法人)	10,000					1		1	
旭川ロータリー 育英財団奨学金	6,000					1		1	
深川市奨学金	15,000					1		1	
士別町奨学金	10,000			1				1	
北海道厚生連 医学修学資金	50,000						2	2	
川崎市公衆衛生 修学資金	30,000						1	1	
旭川市奨学金	10,000						1	1	
江差町奨学資金	13,000	1						1	
住友生命奨学金 (財団法人)	20,000					1	1	2	
函館市奨学金	8,000		1		1			2	
幌延町医療職員 養成修学資金	50,000		1					1	
網走市奨学金	8,000					1		1	
鉄道弘済会奨学金 (財団法人)	16,000		1					1	
神奈川民医連奨学金	35,000				1			1	
遠軽町奨学資金	18,000		1					1	
根室市奨学資金	6,660	1						1	年額 80,000円
齊藤育英会	10,000				1			1	
吉田育英会	15,800 20,300	1	1					2	
計		3	7	3	8	15	16	52	
合 計		46	54	35	37	59	46	277	

サークル紹介



本学では、現在文化系26、体育系28のサークルにのべ962名の学生諸君が加入し、それぞれの活動を行っています。

課外活動は、諸君の個性・能力・技術等の向上を図るとともに、先輩・友人や顧問教官との緊密な接触を通して、自律性・協調性を養う自主的グループの活動です。そのような活動が学生生活に豊富に織り込まれることは人間形成の上からも望ましいことです。

各サークルでは、諸君の積極的な参加を待っています。

(学生課)

ラグビー部

「ラグビー」正月テレビで見た方も多と思う。ほんのわずかのルールがあるだけで、後は自由に自分の責任において行なわれる。ラグビーの勝利は、15人各々のボールに対する執念と相手に対する闘争心の結晶である。練習は厳しい。しかし時間は他のクラブと同じか少ない位である。体の大小、経験の有無は全く関係ない、ただ本人のやる気があれば十分。大学時代にしかできないといって過言ではないこのスポーツに挑戦してみないか。勝利の美酒を、敗北の苦汁を共に味わってみようではないか。

(文責 渡部和巨)

部員数	経 費	活 動
30	会費 月額 1,000円	7/5 全道大会1回戦惜敗 11/1・2・3 東医体2回戦惜敗 旭川市ラグビーフットボール協会・ 北海道学生ラグビーフットボール協 会加入



陸上競技部

東医体優勝、山本の千五百m全道学生新など、陸上部にとって昨年は一昨年に続き得るところの多い年となりました。

陸上競技は長い月日をかけて作物を育てるようなものです。収穫を得るには毎日水をやり、肥料をやり、大切に、時に麦を踏む如く厳しく、根気強く作物を育ててゆかねばなりません。一週間も世話を怠ればそれまでの努力は水の泡となってしまいます。陸上競技では水や肥料が練習であり、それを与えるのも与えられるのも自分自身です。収穫は記録の向上として現われます。良い収穫が得られるかどうかは本人次第です。

陸上部は今年も東医体優勝を目指します。そして、これまでの成果をさらに発展させてくれる人の加入を待っています。(責任者 小黒恵司)

部員数	経費	活動
6	会費 月額 1,000円 試合参加費 協会加入費	7/13 地区区体総合6位 7/29~30 東医体総合優勝 10/4~5 全日本学生選手権 (山本1500m 道学生新) 旭川陸上競技協会他加入



スキー部

僕等のスキー部は“racing ski club”であります。同好会ではありません。

僕等はクラブの「自由」な雰囲気を最も大切にしています。さらに僕等はクラブの「知性」をも重要であると考えています(もっともこれには少々俗な意味あいがありますが)。この2つの要素がチームワークを形成するためのクラブとしてのback groundであります。

だから君達が僕らのクラブに入って努力をするならばきっと望ましい成果が得られるであります。

諸君“elan”, “eland”達よ、我々と共に“elan”しようではありませんか! (註)英仏辞書を参照。

(責任者 西川祐司)

部員数	経費	活動
30	会費 月額 1,000円 遠征費・スキー ワックス・	S55 3月中旬東医体総合男子7位女子1位 S55 1/25 全道スキー選手権大会リレー7位 S55 3/1~2 全道学生スキー選手権大会

大会参加費 北海道スキー連盟加盟

※クラブ活動の都合上54年度の活動である。



ゴルフ部

今や世はブーム・ブームの時代とか申しますが、そのブームに乗っかろうとしているのがこのゴルフです。

ところでみなさん、「ゴルフなんて簡単さ」などと思っていないでしょうか。確かにゴルフは誰でも楽しめるスポーツです。しかし、ボールが止まっているために、完成されたフォームはもちろん、微動だにしない精神力が要求されます。これもゴルフの面白さの一つです。

経験、年齢、性別、お金、道具の有無、運動神経などいっさい関係ありません。さあ、君も店々としたコースでのびのびとプレーしてみないか。(文責 山田浩文)

部員数	経費	活動
21	一切なし	5~10月学連月例及び新人戦(9月) 7月北海道学生ゴルフ選手権、弘前 大医・岩手医大3校対抗戦優勝 年2回部内コンペ 北海道学生ゴルフ連盟加盟



ボディビルディング

われわれボディビル部は「男らしく、たくましい体」の完成を目的とし、毎日練習にはげんでいます。今年は、ただ筋肉をつけるだけではなく、サーキット法を取り入れ、循環器を同時にきたえながら、あのブルース・リーのような、縮った肉体を目ざして練習していきたいと考えています。余分な肉を取りたい人、逆に筋肉をつけたい人、どちらも大歓迎、見事、たくましい体になること受けあいです。また初心者の方でも、全道学生チ

チャンピオンという実力ある先輩が、親切でいねいに指導してくれますから心配無用です。受験でなまった体をわがボディビル部で鍛えてみませんか。練習は毎日昼休み、体育館二階で行なっています。気軽に一度練習場にきてみて下さい。(責任者 酒井博司)

部員数	経 費	活 動
12	会費 月額 1,000円 遠征費 年間 3,000円ぐらい	10/26 秋季北海道学生パワーコンテ スト ミドル級1位 ライト級2位 北海道学生ボディビル連盟加盟

硬式庭球部

現在、私たちの硬式庭球部は部員約40名で、旭医大の運動系クラブの中では1、2位の部員数です。医学部という特殊な環境の中で、留年の不安を背負いつつ、コンバと合宿に全員参加を目指して毎日練習に励んでいます。今私たちは若い人材を求めています。経験者、未経験者を問わず、やるきのある人には私たちが責任をもって指導します。良い?!先輩に囲まれて、大雪山を眺めながらテニスができる皆さんはとても幸せです。夏はテニス、冬はスキーという一見贅沢な生活に浸ってみませんか?(責任者 藤尾直樹)

部員数	経 費	活 動
37	会費 月額 1,000円 遠 征 費	5/18・25、6/1 北海道学生王座リーグ 男子2部3位、女子3部1位 6/6-7 北医体3位 7/6狩勝杯優勝 7/22-25 東医体男子ベスト32、 女子ベスト16 旭川庭球協会加入



バドミントン部

バドミントンは、我が国がチャンピオン国である数少ないスポーツの一つである。ところが、日本なんてまるで弱くて、姿形はよく似ているテニスは大人気なのに、バドミントンは全然人気がない。特に女子には人気がない。テニスなんかよりずっと軽いんですよ、ラケット…女子の方、是非一度、体育館を覗いて下さい。(ちなみに、現在、女子部員は5名です。)次に、男子新入生諸君我がクラブは現在、交代期に直面しており、スターの出現を大望しております。体力、運動神経そして何とい

っても根性に自信のある方ノ来たれ!!

(責任者 小原充裕)

部員数	経 費	活 動
27	会費 月額 1,000円 遠 征 費	5/17-18 北医体ベスト4 6/21-22 道医体3位 7/13 地区体1回戦敗退 7/29-8/2 東医体1回戦敗退 10/25-26 旭川地区五大学リーグ戦5位 旭川地区パドミントン協会他加盟



バスケットボール部

我々バスケット部は医大の中でも活発に活動しているクラブの1つである。練習は週3回でそれなりの厳しさと楽しい雰囲気の中で行っている。我がクラブの実力というなら、東医体系の大学中でベスト8には入る。(2年連続第4位をとったこともある。)しかし、こんな我がクラブにも1つ困ったことがある。それは部員の老令化である。そこで、新一年の若い力がどうしても必要なのです。是非とも我々のクラブに入って、いい汗を流してもらいたい。シュートを決めた時の爽快感は何事にも変え難いものである。初心者でも心配はいりません。

(責任者 窪谷武雄)

部員数	経 費	活 動
22	会費 月額 500円 遠 征 費	5/3-4 北医体2位 7/12 地区体2位 7/30-8/3 東医体2回戦進出 10/16-17 秋季北海道学生選手権2 回戦進出 旭川バスケット連盟他加盟



空 手 道 部

我が空手道部は、過去の種々の大会に於いて、ベスト8の記録に甘んじる事が多かったが、本年度こそは優勝を、の気概を以って、主将笠茂、統制部長宮本先輩以下12名の有段者が主力となり、18名の部員が、日夜、修練を重ねている。

空手道は、精神力と体力とを養うには、格好の武道である。我こそは、と思う者は空手道部へ来たれ!!練習は、毎日昼休み、体育館2階の武道場に於いて行なっている。“押忍” (文責 笠茂公弘)

部員数	経 費	活 動
18	会費 月額 700円 遠 征 費	10/12 全道学生空手道大会ベスト8 10/26 全道学生空手道大会新人戦 ベスト8 旭川地区空手道連盟 全日本空手道連盟加盟



柔 道 部

新入生の皆さんは受験勉強で体力・持久力ともに著しく低下していると思います。そこで体力・持久力をさらに精神力・礼儀等を身につけるため柔道をしましょう。昨年、の新入生は未経験者ばかり6人も入部しましたが、皆さん1年間で素晴らしい進歩を遂げました。

練習は放課後毎日行ないます。練習時間は2時間。初めは苦しいかもしれませんが、2・3ヶ月もするうちに生活のリズムの中に融け込むことと思います。そしてそれがまた勉学に励むためのエネルギーになるのです。大学でクラブ活動をする第一の目的は自分自身を精神的にも肉体的にも鍛えることです。そのスポーツがうまくなるというのは副産物、つまりクラブを続けるための楽しみであります。ですから、経験者でも未経験者でも大歓迎なのです。自分自身を鍛えたいと思う者は柔道部へ入部して下さい。きっと満足のいく練習ができると信じています。(責任者 石川雅嗣)

部員数	経 費	活 動
13	会費 月額 500円 遠 征 費	5/29 道医学部三校戦2位 7/13 北海道学生柔道地区大会 2回戦進出 7/26~27 東医体予戦3位 全道学生柔道連盟加盟

サ ッ カ ー 部

サッカー部はサッカーが本当に好きな者達が集った30人の大所帯であり、各々サッカー以外にもいろいろな方面で活躍しています。練習は厳しい方ですが、すぐ馴れるでしょう。僕が入部したとき感じたことは、皆が皆いい先輩ばかりである、ということでした。練習の時も練習以外の時も、試験の時も、いろいろな事で優しく手を差し伸べてくれました。その伝統は今も受け継がれています。サッカー部は勝つことを目標としていますが、スポーツは楽しくあるべきだ、楽しくサッカーをやろうという人も勿論大歓迎です。新入生の諸君、待っています。

(責任者 岡田邦明)

部員数	経 費	活 動
29	会費 月額 1,000円 遠征費 年額 5,000円程度	5/18~9/21 旭川社会人リーグ2位 5/31~6/1 北医体 7/26~31 東医 体2回戦進出 7/11~13 地区体3位 10/10~14 インカレ道予選リーグ 3位 旭川蹴球協会他加入



バレーボール部

新入生諸君、まずは合格おめでとう。大学生活に早く慣れ、先輩後輩とも楽しくやっぴいこう。さて、我々バレー部も例年のごとくここに新入生大募集をする。数年前までは東医体連続優勝、地区体優勝、インカレ出場権獲得などがやかしい栄光を持つバレー部も、今や衰退期にさしかかっている。この事態を脱出するには、君達新入生の力が是非必要なのだ。経験不問。今の部員もほとんどが素人である。バレーが好きなら、バレーをやってみたく思っている人は、体育館へ集合ノ、学力優秀容姿端麗な先輩が暖かく迎える。なお、女子も歓迎。

(責任者 酒井寛人)

部員数	経 費	活 動
16	会費必要な 500円徴収 ユニホーム代 6,000円 遠 征 費	5/3~5 春季リーグ4部3位 6/28~30 全道選手権予選敗退 7/15~17 地区体ベスト16 7/29~8/1 東医体ベスト16 旭川バレーボール連盟他加盟



剣道部

剣道は日本古来の武道である。古くは人を殺す手段として剣術と呼ばれるものがあったが、現在の剣道は精神及び肉体を練磨し、豊かな人間性と人格を形成することを目的とするものである。即ち、剣道とは人を活かすべきものである。現在、剣道部には26名（女子4名を含める。）の部員がおり、毎週月曜、金曜の午後5時からと、水曜日の午後3時からの3回、体育館2階の武道場において稽古に励んでいる。また金曜日の稽古には美瑛剣連から教士六段の先生を迎えて御指導いただいている。

昨年は、東医体決勝トーナメント進出、北医体3位、3医体団体戦、新人戦共1位等、着実に実力を付けて来ている状態である。女子においても団体戦規定人数の5人には足りないものの、各々持ち味を生かして健闘した。今年は、まず全日本学生剣道選手権及び全日本女子学生剣道選手権大会北海道予選を皮切りに、北医体、地区体3医体と試合が続くが、やはり東医体ベスト8進出を主な目標に精進したい。部員の中には大学に入学してから剣道を始めた者も多いが、皆上達して来ている。剣道に興味のある方、躊躇うことなく入部されたい。（女子の入部も歓迎する。）（責任者 原 隆志）

部員数	経 費	活 動
26	会費 月額 1,000円 遠 征 費	7/20 3医体 団体戦1位 新人戦1位 7/28～29 東医体ベスト16 11/9 新人戦参加 7/13 地区体ベスト9 旭川剣道連盟・北海道学生剣道連盟・ 全日本学生剣道連盟加盟

山 岳 部

新入生のみなさん、こんにちは。こちら山岳部です。感度ありましたら応答願います。4月の旭川、毎日ガストって遠望がききません。そんなある日、朝目覚めると突然ガスがきれ、大雪山系が姿を現わします。山はまだ雪におおわれ、朝夕のその美しさは言葉ではとてもあらわせません。当クラブ、部員10数名、OB 3人の中小クラブ。でもみんな山が好きだなばっかし。わらじ装束大滝、そしてピッシュヨリシュラフの夏の沢、お花畑の稜線、そして雪にうもれた冬の山腹、山を下れば、乞食の姿、でもそこで飲む一杯のコーヒー、なんともいえない気

分いかげですか。新入生の皆さん、一緒に登りましょう。

（文責 郡司勇治）

部員数	経 費	活 動
14	会費 年2回 1,200円ずつ 各山行ごとの 食費など	5/2～4 春山合宿 (トムラウシ～硫黄尾根) 7/7～11 夏期合宿Ⅰ (テンマリ沢～北鎮岳～忠別岳～化雲岳) 7/23～28 Ⅱ (日高、中ノ川、ベテガリ東尾根直登沢) 12/15～18 冬期合宿(オプタテシケ)



弓 道 部

今年は遂に待望の弓道場が完成しました。現代感覚あふれるなまらカッコイイ道場です。これまでは、医大から約6kmも離れている常盤公園の市営弓道場へ通って練習するという勇氣と忍耐なくしては続けられない練習をしていたのです。しかし我々は物好きにも練習を重ね、東医体において、団体3年連続5位以内、3年連続射道優秀賞、そして昨年は女子個人優勝までも成し遂げたのです。たいしたもんだべ。でもこれだけではない。我々は他の分野でも卓越した才能を発揮し、事あるごとのコンパ、花見ジギスカン大会、主将宅すき焼大会、便所そうじジャンケン大会、低レベルボウリング大会、などなど各種行事を取り揃えて皆様の入部をお待ちしているのです。

そして今年。巨人に原、西武に石毛が入団し新しい時代が訪れたように、弓道部にも新道場にふさわしい新時代のスターが必要となったのです。

「弓道部 君こそスターだ」は参加自由、オーディションなし、委細面談、高段位優遇です。めんこい先輩がさわやかな笑顔で待ってます。（責任者 鈴木康之）

部員数	経 費	活 動
27	会費 月額 500円 遠 征 費	7/26～29 東医体5位 10/19 全道学生弓道女子戦8位 10/25～26 全道学生弓道争覇戦4部2位 北海道学生弓道連盟他加盟

大東流合気武道クラブ

旭川医大に於る合気道は今年で満六歳。創立以来部の発展に尽してこられた先輩方が臨床に専念するのを機に、未熟者ながら俺が主将を務めている。合気道はいかにも女の子のイメージだが大東流合気武道は男子のスポーツ

なのだ（とは言うものの俺としては女の子が入部してくれる方がありがたい。）大東流とは武田抜力隊に源流を見る。大刀に対し小刀で立向う技だ。その助差が素手になり、奥技として、柳生新陰流と共に江戸幕府に用いられるようになった。これが今俺達が毎日練習している事。もちろん強くなれるしそれ以上に心がすっきりするんだ。俺も大学に来て始めたばかり。心逞しき男女諸君旭川医大合気道に來たれ！（責任者 榊原隆次）

部員数	経 費	活 動
8	会費 月額 500円 遠 征 費	7/25 北海道学生合気道大会参加 8/3 大東流合気武道演武大会参加



軟式テニス愛好会

『日頃の運動不足・欲求不満解消のため、白球を追ってコート内を駆回る。』こんな目標の下で、軟式テニスを愛するものが集まり、活動を始めて早5年目。私達は、春風が舞う5月から、野山が赤く染まる10月までを、主なコート内での活動としていますが、花見など各種行事を催し、サークル内の交流を深めています。今年、クラブ内の練習試合ばかりに終わらず、他校や看護婦さん達のサークルとの他流試合を盛んにして行って、交流を深めたいと思います。経験者・未経験者を問わず、奮って入会して下さい。あなたも、コートでさわやかな汗を流してみませんか。

（責任者 森 千里）



部員数	経 費	活 動

25	会費 必要な つど徴収 年間 1,000円 程度	7月上旬 旭川地区大学リーグ戦4 位 旭川軟式庭球協会加入
----	-----------------------------------	-------------------------------------

硬式テニス同好会

我が硬式テニス同好会は美しいお姉さまを会長に押し我が大学唯一の全天候用ハードコートを持つ、なかなか恵まれたクラブです。活動は一応土曜と水曜の午後となっていますが、実際はヒマさえあればいつでもよく、僕自身、休講のときなどラケットを持ってコートに飛んでいきます。練習を強制させられることもなく、力まづのんびりとテニスを楽しむことができる。そんなクラブです。

先輩がラケットを貸してくれて、コーチもしてもらえるので、1カ月もすればストロークぐらいはできるようになります。ときには練習中に突然見知らぬ女の子（多分、看護学校の人だと思います）が現れて、いっしょに練習をしたこともありました……。

では最後に去年の1年生がどれくらいの速さで上達したかを参考までに。

5月—全くダメ 6月—ストロークならなんとか
7月—ストロークはほぼ完成 9月—ボレーを覚える
10月—頭ごしのサーブが決まるようになり本格的な試合ができるようになる……ここまできたら、もうテニスはやめられない！（文責 中村一博）

部員数	経 費	活 動
23	会費 月額 1,200円	

スイミングクラブ

入部動機に関するアンケート結果

腹をへこませたい……………58%
練習がつかない……………24%
持久力をつけたい……………10%
中・高時代にやっていた……………2%
泳げるようになりたい……………5%
プールでビキニ姿がみれる……………1%

（以上 主将の推定による）

厳寒の地、旭川でも一年中泳げる。ホテル東急インの温水プール。エメラルドのかがやきが今夜もまぶしい。練習は週二回、火・金曜日午後七時から。お互いに励ましあいながらの自主練習中心。あなた自身の目標にむかって練習して下さい。泳ぐのが初めての人はもちろん指導します。運動部につきものの息苦しい練習はありません。気楽に水泳をしてみませんか。遊泳に飽き足りない人は

東医体に向けて、とにかく一緒に泳ぎましょう。
(責任者 服部 健司)

部員数	経 費	活 動
29	会費 年額 2,000円 遠 征 費	7/28~29 東医体 5年亀田100m・200m 背泳6位

サイクリングクラブ「チャリンコの会」

私達サイクリングクラブ(正式にはまだ同好会ですが)は昨年できたばかりの新しいクラブです。自転車狂から、サイクリングはやってみたいのだが自転車がないという者まで、現在15人の人間が集まっています。

多くの自然がのこるこの広大な北海道を旅するのに、自動車では自然を味わえず、歩いていたのでは時間が足りません。北海道の旅には自転車があうのです。自転車の好きな人はもちろん、少しでもサイクリングに興味のある人、私達といっしょに走ってみませんか? 経験他はいっさい問いません! (責任者 大坂喜彦)

部員数	経 費	活 動
15	会費 必要なつど 徴収 サイクリング 旅 費	6/25 クラブツーリング (旭川サイクリングロード) 10/2 クラブツーリング (朱鞠内湖)



写 真 部

何故、自分は写真をやっているのかと自問してみると、自分にとって写真というものが精神的な面で大きな位置を占めているのに気付く。それは、自分が自分を含めた人間というものに興味を持っているために、写真が、対象を見つめる自分の心、あるいは、人の心を正直に物語ってくれるということによるのであろう。その人の写真を見れば、その人を知ることが出来るといっても過言ではないのではないだろうか。

こういった写真の特色を踏まえて、我々、写真部の活動は、すべてにおいて、その人の自主性に任せている。気分が乗らなければ、活動しなくても誰も何もいわない。ところが、実際の活動はというと、写真部の財政は常に

赤字状態である。総勢15名余りの部員は、せっせせっせと暗室に足を運ぶのである。例会では写真を持ち寄り意見を交わし、その夜は、写真の話しに花が咲くのである。そして、3・6の夜は白々と明けていくのである。写真について、全くの素人の方でも、自主性を持って写真をやってみようという方、写真が好きの方、我々の仲間に入りませんか、歓迎します。

(責任者 今井嘉紀)

部員数	経 費	活 動
16	会費 月額 500円	6/14~15 学祭「写真展」 夏休み撮影旅行—北海道一周

英 会 話 ク ラ ブ

英語はもはやできた方がよいという時代はすぎ、できてあたりまえという時代になってきています。それだけ必要にせまられる機会がふえるということです。

さて言い古された言葉ですが、英語の上達法に王道はありません。とにかく自分で英語をできるだけ多く話し、聞き、読み、書くことです。

幸いなことに、この大学には昨年秋イギリスからこられたグレンヴィル先生がおられます。毎週一回程度数人が集まって先生といろいろ話をしています。ときには逆に、先生に日本語を教えたり、日本の遊びや風俗について、教えたりもしています。身近にNative speakerがいることは我々にとってたいへん運のいいことです。

うまく話せないとか、恥ずかしくて話せない、自信がない等といったことは、どこにも到達できません。

さあ新一年生の皆さん、のみならず上級生の皆さんも参加して、楽しく実り多き英会話サークルにしていきたいと思います! (責任者 大田人可)

部員数	経 費	活 動
10	な し	

医 療 研 究 会

文化系サークルの中でもひととき行動力を誇るのが我ら医療研です。夏のフィールドワークを中心に大学祭・全国医学生ゼミナールでの研究発表など将来の自分たちの医師像を模索しながら医療の現実を考えていくサークルです。特にフィールドは地域に入り医師と共に検診を行なう他、家庭訪問などを通して地域の方々々と交流するユニークな活動です。この中で聞いた住民の生の声我々の活動の源です。週1回の学習会では医療問題のみならず「そもそも医学とは、医者とは」と活発な議論を行な

っています。君も医療研で共に考え活動してみませんか。

(責任者 宮本和俊)

部員数	経費	活動
30	会費 月額 200円 フィールド ワークにおけ る費用	8/6~9 全国医学生ゼミナール



会文の敷

「さしき」ではなく、「さじき」と読む。

その行ないは^{フツ}瘋(キチガイ)の如く、酒を飲んで^{リン}は格(ケチ)をきわめ、試験はことごとく可^カで上がり、^{カン}槧(書物)を友とする。早い^{ハヤ}はなしが文芸部。食堂の上にゴージャスな部室を有し昼休みになると面々が自然発生的に集まってくる。「ティーorコーヒー?」「オー ワリック・ブリーズ」というわけで意気投合して活動の場を夜の^{サンロウ}“山籠”にうつすこともしばしば。そこであなたが見るものは、

しかし我が部の本職は総合文芸誌「^{フツ}敷」の発行にある。原稿を絶対ボツにしない伝統もあり内容は童話から評論まで幅ひろいものとなっている。そのほか隔週で定例読書会を開いて、昨年度はヘッセ、宮沢賢治らの作品がとりあげられ、酒の肴にと三枚におろされた。

「今、僕達は再び内なる辺境に向って未知数であり不可知である黄金の鉱脈を信じて宝探しに立つのだ」という部員の声こそ、ぼくらの存在証明だ。

新しい仲間をぼくらは心から待っている。

(責任者 はっとり けんじ)

部員数	経費	活動
21	一切なし	6/12 「 ^{フツ} 敷」10号発行(112ページ) 2/12 「 ^{フツ} 敷」11号発行(144ページ)

映画研究会

映画・ムービー・シネマ・キネマ……何と心地好い響きであろうか。スクリーン上に映し出されるのは人生そのものであり、そのワンシーンに私達の感性は惹き付けられて離れない。与えられるものだけでは満足出来ぬ渴

望感^カは25回の自主上映を生み、自己表現=映画自主製作の困難をはねのけ、部員の連帯を生み出した。全ての可能性は我がクラブの前に開けている。シンポジウム・合評会・夏冬の合宿……素敵なお出会いと確かな存在感を求めてやまない君達の魂を満足させるために、君達は自身の手で映画研究会のドアを敲かなければならない。

(責任者 武藤福保)

部員数	経費	活動
23	会費 月額 300円 合宿費	4/26・5/17・6/8・12/10 第22・23・24・25回自主上映会 6/15 学祭特別上映会 旭川文化団体加入



JAZZ研究会

JAZZ研究会は、自由な音楽を演奏する集団です。メンバーはセミプロ(昨年自作のLPをリリースした布村氏)からド素人のちょっと上にランクされる人まで種々雑多ですが、みんな音楽好きのナイスガイズ&ギャルズなのです。音楽的傾向としてはいわゆるフュージョンが主流ですが、それに拘らず貪欲にモダンジャズやディスコ・テクノにも挑戦してきました。ともかく肝心なのは意欲です。下手の横好きから好きこそものの上手なれへと一歩でも近づくよう頑張ってみませんか。

(責任者 幸村 近)

部員数	経費	活動
12	会費 月額 500円 遠征費	4月新入生歓迎コンパ 6/7コンサート(プレ学祭企画) 6/8札幌医科大学祭遠征 6/12~15医大祭(前夜祭ライブハウス) 10/1スキー部主催ダンスパーティー出演



ギ タ ー 部

僕たちギタークラブでは週一回、プロの先生に来ていただいて、クラシックギターの練習をしています。

先生はもちろんギターをひくのがすごくうまいのですが、部長の石田はギターより顔での表現力がすごいです。2年の小沢はギターをたたくのがうまく、3年の向山はギターをなでるのがじょうずです。石田君はクラシックが好きですが、向山君はソウルが好きで、菅原君はジャズが得意で、安住君はブルースが好きですが、僕は佐久間良子さんが大大大好きです。ではみなさん、ギタークラブへどうぞ。 HAPPY END。

(責任者 石田 栄)

部員数	経 費	活 動
11	会費 月額 1,000円	10月連盟定演 北海道学生ギター連盟加盟

障害者問題研究会

私たちのサークルは障害者になんらかの関心を持ったものが主体的に集まり、障害者とふれあいながら障害者を取りまく問題に対する認識を深めあう目的で、昨年4月に発足しました。具体的な活動は、各人が市内の各ボランティアサークルに参加し、月に一度の部会で報告、討論しています。又サークル単位として映画会、手話の会、課題研究、旭川ボランティアの集い参加、卓也クンに手を貸す会、療育園訪問等活発に活動しています。

今年は国際障害者年です。障害者にかかわっている人もいない人も、もう一度“障害とは何か”考えなおしてみるべきではないでしょうか。サークルとしてもこの障害者年を主体的にとらえてゆき、障害者の完全参加と平等を求めて、積極的にとりくんでゆく方針です。

(責任者 有吉紅也)

部員数	経 費	活 動
19	必要なつど 徴 収	9月上旬 旭川ボランティアの集い参加 10月～ ドーマン法による脳性マヒ治療 訓練補助



聖 書 研 究 会

「十字架のことばは、滅びに至る人々には愚かであっても、救いを受ける私たちには、神の力です。」

昨年、一昨年と入学式等に聖書をお配りしたので、本学学生の大半は既に、聖書を手にしたことがあると思います。しかし、そこに書かれてある真理の言葉に、心静かに目を留めたことがおありでしょうか。もしあなたが、聖書を非科学的な戯言だと決めつけているとすれば、聖書ははっきり、あなたは滅びに至ると断言しているのです。

旧約は3500年、新約は2000年、書かれてこのかた、一度も改訂されたことがありません。一体この世に、二千年以上も前に書かれたそのままのかたちで、今生きて私たちの人生を左右する書物が、他にあるでしょうか。もしあなたがこのことに心を留め、好奇心からでも、疑惑からでも、ともかく聖書を読んでみようとお考えでしたら、それは非常に幸いなことです。私たちは毎週、そのような人たちのために聖書研究会を開いています。会員制ではなく、全くの自由参加ですので、安心して、いつでもものぞきにきて下さい。(責任者 吉田浩二)

部員数	経 費	活 動
3	一切なし	

“悩 む” 会

我々は今、青春である。そして、その青春が青春たる所以は、そこに常に“悩み”が伴うことにある。よく学びかつ、よく“悩む”、これが豊かな人間形成の大きな糧となるのである。ゆえに、我々“悩む”会は存在する。人間味にあふれた、よりよき医人にならむことを願って……。

では、ここで、具体的な活動を御紹介しよう。我々は先ず、お互いの学友の“悩み”を知るべく、日夜、語り抜く。学問・恋愛・酒……と話題はつきない。医学生との対話のみならず、様々な立場にある女性、(例えば看学生・事務官・等々)との対話も多く、人間としての純粋な興味はつきない。また、我々よりも数倍多い悩みを抱いている人々との対話も大切に。今年度は筋ジストロフィーに悩む人々と福祉コミュニティーを作ろうと、難病啓蒙映画の上映会を、市民文化会館で開催した。これは市民の皆さんの協力で、大好評を博し、新聞にも報道された。

これからも、我々は大いに悩み、自らの人間性をみがいてゆこうと、肝に銘じている。(責任者 渡辺泰男)

部員数	経 費	活 動

11	会費	6/27	難病・身体障害者啓蒙映画
	月額 1,000円 映画会での 諸費用等	年間	“車椅子の青春”上映会大好評 難病患者さんへの慰問

科学論研究会

科学的精神の探究を!!

現代の文明社会を築いてきた科学・技術に対し、今日私たちは、楽観的な期待をかけえない事態に直面しています。例えば、近年のめざましい生命科学の発展に対して、遺伝子組み換え技術が核開発におとらない危険を包蔵していること、医学の進歩が人類の遺伝形質を低下させる作用を伴っていることなどの警句がなされています。原子力開発にともなう放射能汚染を例に掲げるまでもなく、科学者が精魂かたむけて努力してきた科学・技術の研究・開発が、かえって人類の平和と幸福をおびやかす危険のある事実が明らかになってきています。これらの



窓外

笹森秀雄

心に残るムラ

農村調査30年のうちには、思い出に残るムラが幾つかあるものである。屯田兵のムラ、団体移住のムラ、農業共同化のムラ、ダムの建設によって水没したムラ、機械開墾によって成立したパイロット・ファーム、そして過疎のために崩壊したムラ・ムラなど。しかし私の心にも強く焼きついて離れないのは、「住民自治のモデル村」ともいふべき十勝管内の一寒村^{のみはがた}上羽帯の村である。

この部落の名をはじめて耳にしたのは、昭和49年秋のことであった。その後しばらくして、友人からこの地域の住民が総出で作ったという「上羽帯地区振興策」なる概要書が送られてきた。その内容は、①上羽帯小学校の統合に関する件、②清水町少年自然の村建設に関する件、③生活用水及び農業用水確保に関する件、の三点にかゝるものであった。そしてその各々の細部の課題については、更に住民が主体となって行うもの、住民と行政が協力して行うもの、主として行政が行うもの、の三領域が明記されていた。他人依存、行政依存の今日の世情を考えた時、私はそこに民主主義の神髄、地方自治の原点を見出したような気がして、何ともいえぬ感慨にひた

科学の危機に対して、医学・医療を担うべき私たちが、ただ単に学問と真理の追求を推し進めていけばいいのだという立場に安住してはいられません。私たち医学生に今、求められているのは、現実をありのままに把握する科学的精神とヒューマニズムに貫かれた方法論・認識論(=科学論)を身につけることです。そうしてこそ、医学を本当の意味での健康と幸福の科学として発展させて行く原動力が生まれるのです。科学論の探究を通じて医学・医療の新しい担い手として、展望を持った学生生活のスタートをきりませんか。新入生歓迎。例会土曜日。(責任者 仲谷 了)

部員数	経費	活動
3	会費 必要な 徴収	

学校統合の問題は、全道的にも全国的にも、とかく紛争の因をなしてきたものであるが、この地域においては、むしろ積極的にそれを推進し、その跡を社会教育施設に転用して、地域振興策の一環としての「少年自然の村」建設の中核としたい、というまさに異例の構想であった。しかも自然の村の計画図をみると、学校跡の自然の家をはじめ、いこいの庭、つどいの広場、ポニー牧場、小鳥の村、野草園、子どもの森、養魚池、少年キャンプ場、櫻街道、サイクリングロード、ファミリー・ミニ・ゴルフ場、記念森林公園、酪農モデル村、畑作モデル村の形成など、そこには地域住民の大きな夢が描かれていた。

私がこの部落を訪ずれたのは翌年夏のことであったが、その時すでに4キロ近い街道には桜が植えられ、少年自然の家の囲りは色とりどりの花で埋められ、また、不十分ではあるが、キャンプ場の下地もできていた。いこいの庭も、手が増えられ、すばらしい環境になっていた。私には、僅か22戸の部落の人びとの所作とは到底考えられなかった。部落会長の言によると、「私たち部落住民は、我が子への遺産として、この恵まれた自然を残し伝えていきたいものと心新たに、この計画を立て、それを実行しているのです。」ということであった。

現代社会の複雑な政治課題を解決するには、専門的知識と技術、また強力な指導力が必要なことはいうまでもない。しかし、民主政治の内実を実現するものは、制度や建前だけではなく、むしろそれを越えて、住民が積極的に政治・行政に参加し、主体的に行動して行く自治の態度にあるといえよう。上羽帯の事例は、それを如実に示しているように思われ、私には、数多い調査地域のなかでも、今もって忘れ得ぬムラの1つとなっている。

(社会学 教授)